



普通高等教育“十五”国家级规划教材

# 新编 第二册

## 日语泛读

しんぺんにほんごたどく

王秀文 李庆祥（日）山鹿晴美 编著

外语教学与研究出版社



普通高等教育“十五”国家级规划教材

# 新编 第二册 日语泛读

しんぺんにほんごたどく

王秀文 李庆祥 (日) 山鹿晴美 编著

外语教学与研究出版社

北京

## 图书在版编目(CIP)数据

新编日语泛读. 第二册 / 王秀文, 李庆祥, (日)山鹿晴美编著 — 北京: 外语教学与研究出版社, 2006. 4  
ISBN 7-5600-4873-0

I. 新… II. ①王… ②李… ③山… III. 日语—阅读教学—教材  
IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2006) 第 033265 号

出版人: 李朋义

责任编辑: 杜红坡

封面设计: 袁璐

版式设计: 韩晓梦

出版发行: 外语教学与研究出版社

社址: 北京市西三环北路 19 号 (100089)

网址: <http://www.fltrp.com>

印刷: 北京密云红光印刷厂

开本: 889×1194 1/32

印张: 11.375

版次: 2006 年 4 月第 1 版 2006 年 4 月第 1 次印刷

书号: ISBN 7-5600-4873-0

定价: 17.90 元

\* \* \*

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

制售盗版必究 举报查实奖励

版权保护办公室举报电话: (010)88817519

## 编写说明

本套教材（共四册）是作为1992年立项的《日语阅读课程改革与研究》（辽宁省教育委员会人文、社会科学重点基础研究课题。主持人：王秀文）研究成果之一而编著的。1994年春通过中国高等院校外语专业教学指导委员会组织的审稿会审定，于1994~1996年期间由高等教育出版社以《现代日语阅读教程》（共四册）出版发行；1999年开始修订，于2000~2002年期间由外语教学与研究出版社以《日语泛读》（共五册）出版发行。

在近十年的时间里，本教材得到全国数十所大学日语专业的选用，在补充了该类教材种类不足的同时，有效地促进了中国日语教学的发展，也确立了本教材的社会地位。2002年，本教材被确定为中国教育部普通高等教育“十五”国家级规划教材。

藉此之机，在出版社的支持下，于2004年开始着手选材和新编工作，更换了原《日语泛读》近三分之一的内容（第二册的第二、四、六、十、十一、十二、十五、十九课为新替换内容），进一步增强了时代感和可读性，同时兼顾广大考级、考研及自学日语者学习之便，为全书正文添加了中文参考译文。

本教材第二册主要由李庆祥和中国海洋大学日本外教大木章执笔,中国海洋大学王文贤教授及日本外教平川美穗参加了部分内容的编写,全书译文由王秀文、山鹿晴美审定。参考译文原则上以直译为主,李庆祥翻译了第二课,其余24课由中国海洋大学王光民副教授翻译,译文全部由李庆祥修改校正。

最后,谨向多年来使用和关心本教材的广大教师和同学们表示感谢,敬请一如既往提出宝贵意见,以便重新修订时参考。此次新编出版,得到了外语教学与研究出版社日语工作室的协助,同时也得到了《人民中国》杂志社王众一主编的大力支持,在此一并表示衷心的感谢。

编著者

2005年12月

## 原版编写说明

《现代日语阅读教程》是为适应我国日语教育的发展和日语教学的需要而编写的辅助性教材,主旨在于通过有指导的大量阅读,提高学生阅读理解和外语思维、分析的能力,巩固所学的语言知识,扩大知识面和词汇量,丰富日语语感等,以达到运用日语进行交际的目的。本教程适用于日语专业的泛读课、大学日语的阅读课和各类日语教学单位的教学,也可供广大自学日语的人员使用。

本套教程分为四册,每册25课,供教学单位选择使用。每课由课文、ことばの説明、練習 I、II、III、IV等部分构成。课文选入的文章均系原文,并力避国内其他教材中已出现的文章。文章长度以1,500字左右,渐次增加至3,500字左右,在编排上考虑了难易程度的循序渐进、由浅入深。选材时充分注意了文章的思想性、实用性、知识性、科学性和趣味性,同时也兼顾了文章题材的广泛性和体裁的多样性。为扩大学生的视野和知识面,还特意选用了个别从语法和句子结构角度来看不是太规范的文章。

“ことばの説明”部分,从课文中提出会影响阅读、理解的词语2%左右,标注日语音或汉字,并注以中文对应词或解释。对

少量意思上一目了然，但发音有些难度的汉语词汇和一般性人名、地名等在课文中标注“振り仮名”。《高等院校日语专业基础阶段教学大纲》中规定的词汇原则上不予提出。

练习的编写以努力提高学生的理解能力和突出它在教学中的指导性作用为原则。“練習Ⅰ”以词语练习为主，从课文中提出与文章理解密切相关的词语（包括语法现象）5个左右作为问题，每个问题后设答案若干，以选择的方式进行语义及用法方面的练习。“練習Ⅱ”以内容练习为主，从课文中提出与文章内容的理解密切相关的问题（包括语法现象）5个左右，结合文章内容在每个问题后设答案若干，供选择练习。“練習Ⅲ”结合文章的主题思想和中心内容提出问题两个左右（本项练习从第一册第16课开始设），供学生从语篇的角度进行思考、分析和概括。“練習Ⅳ”为快速阅读部分，每课选择一篇题材和内容与正文相近的短文为语言材料，并从中提出3个左右的问题以选择的方式供理解练习。短文亦均选用原文，选用标准与课文部分相同。这一部分为教学上的补充内容，在时间要求和教学方法上可作更灵活的处理。

《现代日语阅读教程》1~4册由王秀文（辽宁师范大学）担任主编、李庆祥（山东大学）担任副主编。第一册由王秀文、关春影（辽宁师范大学）、刘淑梅（山东大学）、李庆祥编写，在辽宁师范大学任教的高岛康子先生审校了全文。

由于我们经验不足、水平有限，加之时间仓促，错误及不当之处在所难免，欢迎日语界同仁及同学们批评指正。

本套教程第1、2册曾由部分日语专家、教授开会审定，参加审稿会的有（依姓名笔画序）：于长敏先生（中国高等学校外语专业教学指导委员会委员、吉林大学外语学院院长、教授）、尹学义先生（中国高等学校大学外语教学指导委员会委员、国家教委高等教育出版社编审、教材发展研究所研究员）、刘和民先生（中国日语教学研究会顾问、大连外语学院教授）、刘耀武先生（中国日语教学研究会会长、黑龙江大学外语学院副院长、教授）、胡振平先生（中国高等学校外语专业教学指导委员会委员、中国日语教学研究会常务理事、洛阳外语学院教授）、徐祖琼先生（中国高等学校大学外语教学指导委员会委员、日语组副组长、中国大学外语教学研究会副会长、复旦大学教授）。审稿会上，各位专家、教授对本教程给予了充分肯定，并提出了许多宝贵的意见和建议，对此谨表衷心的感谢。

本教程选用的文章涉及到很多作者，由于种种原因难以查询、联系，敬请各位作者谅解，同时在此谨表诚挚的谢意。

编者

1994年4月



# 目 録

第一課 年中行事と信仰 .....	1
第二課 ゴミをどうするか .....	10
第三課 赤い風船 .....	20
第四課 大連で迎えた日本の敗戦 .....	29
第五課 海外旅行 .....	39
第六課 京都の伝統を買う .....	49
第七課 イモ洗いとムギ拾い .....	58
第八課 酒樽と人間 .....	67
第九課 学校給食の功罪 .....	76
第十課 ペットブーム .....	86
第十一課 男はつらいよ .....	97
第十二課 使い捨て .....	107
第十三課 身ぶり・しぐさ .....	118
第十四課 財政 .....	128
第十五課 日本の贈答文化 .....	137
第十六課 日本語の歴史 .....	147
第十七課 ビザ .....	156

第十八課 漫画と科学 .....	165
第十九課 周囲の目が怖い——世間体 .....	175
第二十課 保護色 .....	185
第二十一課 外国人花嫁 .....	195
第二十二課 「生まれ」による差別 .....	204
第二十三課 結婚式 .....	213
第二十四課 会社 .....	223
第二十五課 季節感 .....	232
参考译文 .....	242
参考答案与题解 .....	301

## 第一課 年中行事と信仰

十一月十五日は、七五三です。七五三というのは、子供が七歳、五歳、三歳になったのを祝う日です。それで、その年の子供のいるうちでは、子供をつれて、神社へおまいりに行きます。子供たちは、この日のために作ってもらった着物を着て、うれしそうです。親は子供がこの年まで無事に成長したことを神に感謝し、また、これからも、健康でよい子になるようにと願うのです。子供たちは、「千歳あめ」という菓子を買ってもらいます。この菓子は、千年も生きるようにという願いをあらわすものです。

七五三は中国から伝わったもので、むかしは貴族や武士の間でおこなわれていました。それが江戸時代の中ごろから、ひろく一般の人々にもおこなわれるようになりました。女の子は三歳と七歳、男の子は五歳のとき祝うのがふつうですが、地方によっては、ちがうこともあります。ともかく、子供が成長していくことを祝うのです。

日本には、七五三のような風習がたくさんあります。正月の行事、節分、ひなまつり、ひがん、たんごの節句、おぼんなどです。また、クリスマスも近ごろは、日本ふうな行事になりました。このほか、農村では田植え祭りとか、新穀感謝の祭りなどがあり、町では初うま、えびすこうなど商売がうまくゆくようにという商人たちの祭りがあつて、また、各地の神社には季節ごとの祭りがあつて、まったく一年中休むひまもないほど

です。

このようなたくさんの行事の中で、七五三のように、日本中どこでも一年に一度きまった日におこなう行事を、年中行事と言います。

年中行事は、目的はだいたい同じですが、やり方は、所によってずいぶんちがいます。また、東京のような大きな都会では、だんだんおこなわれなくなったり、新しい形にかわってきたりしています。

年中行事には、はじめは、神社や寺に関係の深いものが多かったのですが、現在は、宗教の面から考えると、あまり大きな意味を持っていないものもあります。東京などでは、たいへん形式的になって、七五三でも、神社へ行くからといって、その人達が神道を信仰しているとはかぎりません。仏教の人もあるのです。また、クリスマスを祝うからといって、みなキリスト教を信じているわけではありません。明治時代になってから、西洋の宗教として、その行事が多くの人々にめずらしがられたからです。クリスマスのほんとうの意味を知らないで、ただ西洋のまねをしている人が多いのです。

このように、日本には、たくさんの宗教があります。第二次世界大戦前までは、一つの宗教だけを熱心に信じている人は別ですが、多くの家には神だなど仏壇とがありました。一つの家で、神道の行事も、仏教の行事もおこなわれていたのです。

仏教が日本にはいつてきたのは6世紀ですが、それ以来仏教は、それまで日本人が持っていた宗教と一つになってしまいま

した。その上、仏教といっしょに、インドや中国のいろいろな信仰がはいつてきて、日本の宗教の中にとけこみました。このようにして日本では、たくさんの神や仏が信じられるようになりました。そして、そのたくさんの神仏は病気をなおす神、商売をさかんにしてくれる仏など、それぞれ独特の役目を持っています。日本人は神や仏を、それぞれの役目によって信仰している場合が多いのです。

〔文化庁編、『外国人のための日本語読本』（初級3）による〕

## ことばの説明

年中行事 [ねんじゅうぎょうじ]	一年中的传统节日活动，例行的仪式
おまいり [御参り]	参拜神佛
七五三 [しちごさん]	七五三节（男孩儿5岁，女孩儿3岁，7岁时在每年的11月15日举行的庆祝仪式）
千歳あめ [ちとせあめ]	千岁糖（日本小孩儿过“七五三节”时吃的棒状饴糖）
節分 [せつぶん]	立春的前一天（大约在2月3、4日）
ひなまつり [雛祭り]	偶人节（日本3月3日陈列偶人，供白酒、点心、桃花等，祈求女孩儿幸福的节日活动）

ひがん [彼岸]	春分、秋分前后各3天，一共7天时间（在此期间，人们做法事悼念亡灵）
たんごの節句 [端午のせつく]	端午节
おぼん [お盆]	盂兰（盆）会
クリスマス [Christmas]	圣诞节
田植え祭り [たうえまつり]	插秧节
新穀感謝 [しんこくかんしゃ]	新谷丰收谢谷神
初うま [はつうま]	阴历2月的第一个午日（稻荷神社的庙会）
えびすこう [恵比須講]	（日本阴历10月20日或正月10日、20日的）祭财神
キリスト教 [葡Christoきょう]	基督教
神だな [かみ棚]	神龕
仏壇 [ぶつだん]	佛龕

## 【練習 I】

1. 「ともかく、子供が成長していくことを祝うのです」の「ともかく」の意味として、次のどれがあてはまるか。
  - a. いろいろの事情はあるがひとまず。
  - b. 以前から聞いたとおり。
  - c. それとは関係なしに。

2. 「クリスマスも近ごろは、日本ふうな行事になりました」の「ふう」と同じ意味のものを、次から選びなさい。
- 変なふうをした若者たちが、広場に集まっていた。
  - 私は何気ないふうを装った。
  - そこには中世ふうの建築がいっぱいある。
3. 「商売がうまくゆくようにという商人たちの祭りがあります」の「ゆく」はどんな意味か。あてはまるものを、次から選びなさい。
- おもむく。
  - 行われる。
  - 達する。
4. 「その人達が神道を信仰しているとはかぎりません」の「かぎり」の使い方は、意味として次のどれに該当するか。
- そうとは決まっていない。
  - それだけでなく、ほかの場合もそうだ。
  - それだけはほかとちがって。
5. 「仏教は、それまで日本人が持っていた宗教と一つになってしまいました」の「一つ」と意味の同じものを、次から選びなさい。
- 一つには将来の計画も必要だ。
  - 人間は薄情なもので、昨日までは毎日来た友たちも、今日

は門の前を通ってさえ、挨拶一つして行きません。

c. 天気の良い日には、空と海とが一つに見える。

## 練習Ⅱ

1. 「七五三」とはどのようなことか。正しいと思われるのを選びなさい。
  - a. 子供が七歳、五歳、三歳になったのを祝う日です。
  - b. 子供をつれて、神社へおまいりに行く日です。
  - c. 子供が千年も生きるようにという願いをあらわすものです。
  - d. 子供が成長していくことを祝う日です。
2. 「親は子供がこの年まで無事に成長したことを神に感謝し、…」の「この年」はどの年か。
  - a. 七五三を行う年。
  - b. 子供が七歳、五歳、三歳になった年。
  - c. 神社へおまいりに行く年。
3. 「年中行事」というのは、どのようなことか。
  - a. 七五三のような風習。
  - b. 日本中どこでも一年に一度きまった日におこなう行事。
  - c. 神社や寺に関係の深い行事。
4. 日本人がクリスマスを祝うのは何のためであるか。
  - a. キリスト教を信じているため。



- b. クリスマスの行事が多くの人々にめずらしがられたため。
  - c. ただ西洋のまねをしているため。
5. 日本人は宗教に対してどんな態度をとっているか。
- a. 各地の神社に季節ごとの祭りがあるように、日本人は神道をとくに信仰している。
  - b. 日本には宗教がたくさんあるが、日本人は皆一つの宗教だけを熱心に信じている。
  - c. 日本人は、神や仏をそれぞれの役目によって信じている人が多い。

### 練習Ⅲ

年中行事は宗教とどのような関係を持っているか。本文からぬきだしてまとめなさい。

### 練習Ⅳ

次の文を読んで後の問いに答えなさい。

#### お七夜

子供が生まれて7日目に名まえをつけてお祝いをします。これを「お七夜」と言います。古くは生まれた子の母方の祖父が名まえをつけることが多かったのですが、親が尊敬している人